

## 北陸新幹線開業の長期的効果への期待

五十里 寛

3月14日（金）北陸新幹線長野－金沢間が開業した。これにより、東京－金沢間の所要時間が約2時間30分となり、東京－京都あるいは大阪－金沢と同等となった。2015年の日経ヒット商品・サービス予想ランキングで北陸新幹線は第1位、全国の商業地の中で金沢駅周辺は地価上昇率第1位となっており、新幹線効果にかかる期待の大きさが窺える。ちなみに沿線の富山、石川県に及ぼす経済波及効果について、当行調査ではそれぞれ年間88億円、124億円と試算している。

1997年の長野新幹線開業早々に長野県全体では雇用が減少したことなどもあり、北陸新幹線についても都心とのアクセス性向上によるストロー効果を懸念する声も一部聞かれる。しかしながら、都市・地域としての魅力・ブランド力があれば問題ないことは、同じく開業後に人口が約3割増加した軽井沢の例を見ても分かる。軽井沢は単に商業や観光だけでなく、住宅地としての魅力に焦点を当てることにより成功を収めたと言えよう。2011年に法政大学が発表した都道府県別幸福度ランキングのトップ3は福井、富山、石川であり、2014年の住みよさランキング（東洋経済新報社）上位20都市のうち、北陸3県の都市は実に9つを数える。また、現在政府が推進している女性・高齢者の雇用促進という点においても、北陸は優等生である。女性の就業率は、富山（全国5位）、石川（同6位）に福井（同2位）を含め全国トップクラスであり、高齢者（65歳以上）の就業率も全国平均を大きく上回る。北陸は全国でも有数の「働きやすく、住みやすい」地域と言えよう。

そうした中、まだ少数とは言え、富山・石川に本社機能を一部移転する企業も出始めている。東日本大震災以来の拠点分散の方針が、景気回復による企業の投資余力と相俟って具現化されていくという面もあろう。企業の地方進出によって雇用が創出されるのはもちろんであるが、従来の東京本社、地方工場の構図に変化が生じれば、地域間の賃金格差の是正にもつながる。また、同一企業内で多様な働き方が共有されれば、それを受け入れる土壌・ノウハウが醸成され、労働者にとって、より選択の幅が広い「働きやすい」職場となることも期待できる。

北陸地方の雇用情勢については、3～4年前から3県いずれも有効求人倍率が全国トップ10に入っており、新幹線効果を含む直近では人手不足が大きく報じられているほどである。「働きやすく、住みやすい。そして職もある」北陸地方が東京に「近く」なることにより、これらの魅力がさらに高まり、定住人口・雇用の増加といった長期的な効果につながることを期待したい。

2015年3月30日